

# 令和7年度 学校評価総括表（大俣小学校）

1 学校教育目標 人間尊重の精神を基盤にし、一人一人に応じた生きる力の育成を図り、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもたちの育成

2 重点目標 日本社会に根差したウェルビーイングを実現する資質・能力をもった児童の育成 (1) 主体的に取り組む力 (2) 感謝する心 (3) 協力する力 (4) 思いやりの心 (5) 幸せに生きるために(人権に関する知識など)

3 総括表 評価規準 A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価 (4件法)	総合評価			次年度の改善点
		平均値 (4件法)	考察〈成果と課題〉 ※(pt)は、昨年度との比較					
学校経営	経営方針の明確化とその実践状況	3.92	教職員で、ワークショップ研修を行うことにより、学校教育目標の達成に向けての課題を明確にすることで、経営方針を理解することができたと考える。そのことが、教職員アンケートで肯定的割合が100%につながったと考える。そのことが、保護者アンケートでの「学校は、学校教育目標に向かって努力している」という設問に対して昨年度と同様の98%の肯定的な回答につながったと考える。	3.8	3.9	A	本年度、ワークショップ研修を通じて、教職員の経営方針への理解が深まり、組織のベクトルがそろったことが高い肯定率につながった。次年度は、この共通理解を「具体的な授業実践や児童の姿」として具現化するフェーズに移行する	○「資質・能力」の具現化と教職員間で共有・検証するサイクルの構築する。 ○教育活動のプロセスを共有することで、学校経営への参画意識を高める。
	保護者・地域への情報発信及び学校開放等の取組状況	4.00	「学校での様子や教育活動などを、懇談や学級だより、ホームページなどによって知ることができる」と回答した保護者は94.2% (+5.0pt)である。ホームページを昨年度(110回)以上の250回以上更新した。保護者からは、「ホームページの更新を楽しみにしています」と声をかけられることもあった。また、全学級担任が学級経営方針や学級の様子を保護者に伝えたりすることができた。また、メール配信等により、迅速に情報を発信することができた。	3.8	3.9	A	本年度、ホームページの更新頻度向上と多角的な情報発信により、情報発信に対する肯定率が大幅に向上した。次年度は、「情報のアクセスのしやすさ」と「地域連携の深化」を重点に次の改善点を実施する。	○本年度の実績(新着情報250回更新)を維持しつつ、大俣トリビアの訂正や大影小・日開谷小のアーカイブの充実等を含め、ホームページの見直しを図る。
	教育目標の具現化と実践状況	3.58	教職員が本年度、最も児童に向上させたいものに自己肯定感の獲得があった。「自分によいところがある」という質問項目に対して児童の93%(+10.0pt)が肯定的に回答した。この自己肯定感に影響を及ぼしたものとして、本年度取り組んでいる自己調整学習が考えられる。これは、ただ児童が1日の振り返りをするだけでなく、教師が児童に寄り添い、児童の頑張りやその過程を意味付けしたり価値付けしたりした成果だと考える。ただ、教職員はこの手法はさらに改善できると考えている。「実践することで児童は変容している」が4件法で3.58に対し、「研究方法の評価を随時行い、改善することができている」が3.45と下がっていることに教職員の意欲を感じる。この自己調整学習を活用したり、児童の実態にあわせて改善したりすることにより、児童をさらに成長させることができるという前向きな姿勢が、厳しい自己評価につながったと考える。	3.6	3.6	B	本年度、自己調整学習を通じた「振り返りの習慣化」により、児童の自己肯定感が大幅に向上した。次年度は、この基盤を活かし、振り返りを「自らの学びを調整し、次の行動を改善する力」へ高めるために、次の改善点を実施する。	○「見通し」と「振り返り」の一体化を図る。振り返りを単なる感想で終わらせず、目標設定や解決方法の選択につながる「自己調整サイクル」を確立する。教師は、児童の思考に寄り添った適切なスクエフォールディングを行い、児童が自らの変容を実感できる価値付けを行う。 ○教職員の課題意識である「研究方法の随時改善」を具現化するため、研修計画を工夫し定期的な実践事例の共有会(ミニ・ワークショップ等)を充実させる。
	教職員研修体制の確立と教職員の資質・向上に向けた取組	3.85	「意欲的に研修に参加し、資質と指導力を高め、教育実践に生かしている」という質問項目に対して、肯定的割合が100%(平均値3.85)という高い評価となっている。その成果として、「授業中、自分の考えをペアやグループ、学級全体で発表している」が91%(+7pt)、「授業はよくわかる」が100%(+4pt)と児童が肯定的に回答することにつながっていると考える。また、本校の研修システムは県でも高い評価を受け、徳島県教育委員会から表彰を受けた。その講評では、「大俣小学校の研修の方法は、斬新で面白い試みであり、チーム大俣小の醸成にもつながっている。波及効果も高い取組である」と評価されている。	3.8	3.8	A	自己評価、学校運営協議委員ともに、高い評価となっており、「学び続ける組織」としての意識が高まっていることがわかる。次年度は、互いに高め合う同僚性の構築と、質の高い探究的な学びの実現に対しての研修を実現していきたい。	○徳島県教育委員会から評価された本校独自の研修システムを次年度は「大俣スタイル」として標準化(マニュアル化・ルーチン化)し、持続可能な組織体制へと昇華させる。そして、「大俣小ならではの授業づくり」も標準化し、研修によりさらに深化させる。
	教育環境の安全管理及び整備状況	3.96	本年度も、毎月の学校安全の日に安全点検表を使い危険箇所や修繕箇所については迅速に対応した。本年度は、その上に安全点検場所を変えて実施し、違った視点でも確認する取組も行った。その結果、「施設・設備の安全点検表を使って、安全な学校づくりが行われている」については、肯定的割合100%(平均値4.00)という高い評価になった。また、秋の愛校奉仕作業には、多く保護者に参加していただき、環境整備に努めていただいた。校庭や運動場の樹木を剪定・伐採していただいたおかげで、児童が安全で美しい環境で学習できた。	4.0	4	S	本年度、点検箇所の交代制導入など「多角的な視点」での安全管理により、極めて高い教職員の肯定的回答率を得ることができた。次年度は、この物理的な安全基盤を維持しつつ、「児童の安全意識の向上」と「地域の協働による環境維持」をさらに推し進める。	○「気付き」を促す安全点検の定着の定着。教職員による「視点を変えた安全点検」を継続し、潜在的なリスクの早期発見・早期対応を常態化させる。 ○愛校奉仕作業についても、例年通りではなくPTA学年部会等で議題としてあげ、改善していく。
	業務改善・働き方改革への取組状況	3.58	学校の働き方改革推進の必要性について、保護者の96%(+5pt)が理解し、協力してくださっていることには感謝している。本年度は教頭先生が中心となり「かえるボード」等を活用し、時間を意識した働き方改革の実践を行った。その結果、肯定的割合は100%だったものの平均値が3.46であり、さらに教職員に勤務時間の管理への意識をもたせていきたい。教頭先生が自動散水機を設置してくれたため、休日の水やりの負担軽減につながった。また、「校務の推進は、職員の機能を活かし、教職員が協力して進めている」は、肯定的割合は100%(平均値3.92)となっており高い協働性は、来年度も引き継ぎたい。	3.8	3.6	B	本年度、勤務時間の可視化(かえるボード等)や環境整備により、教職員の協働的な業務推進体制が強化された。次年度は、これまでの「効率化」から一歩進み、「教育の質を高めるための時間創出と活用」を重点に、次の取組を推進する。	○時間割編成の見直しと「創造的余白」の創出。これにより、働き方改革を「教職員のゆとり」だけでなく「児童への教育効果」へと還元させる。 ○セルフマネジメント意識の向上と環境の最適化。個々の教職員がさらに主体的な勤務時間を管理できる意識改革を継続する。また、物理的な負担軽減も検討する。
	コンプライアンス推進への取組状況	3.92	コンプライアンスの視点から、不祥事防止等に関する継続的・計画的な研修を進めており、その成果が肯定的割合100%(平均値3.92)につながった。それが、「教職員として強い使命感と高い倫理性が求められることを常に自覚し、行動している」に肯定的割合100%(平均値3.92)につながっている。来年度も、自分事として捉えられる研修を実施したい。	3.8	3.9	A	本年度、継続的な研修により教職員一人ひとりが高い倫理観を共有し、高い規範意識を構築できた。この意識を「一過性のもにしないための仕組みづくり」と「多角的な視点でのリスク管理」を重点に、次の改善を図る。	○「当事者意識」を揺さぶる事例研究の充実。県総合教育センターの「コンプライアンス研修のページ」を積極的に活用し、自校の状況に置き換えた「自分事として考える研修」を定期的実施する。
学力向上への取組とその成果	3.78	「授業はよくわかる」という質問項目に対して、児童は肯定的割合99%(+3pt)という高い評価となっている。自分の考えを発言している児童も昨年度より11.8ptの増加が見られたが、本年度はさらに増加し91%(+7pt)となった。教職員は、学力向上を目指して指導方法に取り組んでおり、児童の変容についても肯定的割合は100%となっており児童の成長は感じているが、平均値が3.54ということから満足していないと感じている。	4.0	3.8	A	本年度、自己調整学習の導入が効果として表れている。次年度は、教職員の「指導の質」に対するさらなる向上心と児童の変容を合致させ、「自ら問いを立て、他者と高め合いながら調整する学び」の深化を目指す。	○「問い」から始まる主体的な学びの支援。「問いの生成」を促す導入の工夫や「スモールステップの設計(自走支援)」を強化する。 ○「学び合い」による調整力を向上させる。	

教育活動	道徳教育及び人権教育の取組とその成果	3.75	「自分はいじめや差別のない学校や学級にしようとしている」と答えた児童は97%で昨年度より8ptも上昇した。また、「自分には、よいところがある」と回答した児童は昨年度より10ptも上昇し93%であった。11月に行われた西部ブロック人権教育主事研修会では、公開授業や実践報告を行った。その取組に対して、他校の人権教育主事の先生方からも高い評価をいただいた。研修会に向けて、研修を重ねてきた結果だと考える。来年度は、阿波市小学校人権教育研究大会の会場校になっており、さらに研究を進めていきたい。	3.8	3.8	A	本年度、西部ブロック人権教育主事研修会への取組や、公開授業を通して、児童の自尊感情が高まった。次年度開催される阿波市小学校人権教育研究大会の会場校としての本校の研究主題「自らを見つめ、共に明日を創る児童の育成～自己調整学習を基盤とした人権感覚の深化～」を軸に実践を積み重ねる。	○自己肯定感を基盤とした「認め合い、高めあう集団」を育成する。向上した児童の自己肯定感を一過性のものにせず、日常のあらゆる場面で「自分と他者のよさ」を認め合える集団づくりを推進する。自己調整学習で培った「振り返り」の力を活用し、児童自らが自らを見つめ直し、共創社会の担い手としての資質・能力を育む指導を充実させる。
	生徒指導の取組とその成果	3.85	「学校のきまりを守っている」という質問項目に児童は、99%の肯定的割合を回答している。「お子様は、家庭でルールやマナーを守り、規則正しい生活を送っている」と回答した保護者は98% (+18pt) である。「全教職員の共通理解のもと、生徒指導体制が整っている」「ポジティブ行動支援を生かした生徒指導を行っている」が共に肯定的割合が100% (平均値3.85) という高い評価になっている。ポジティブ行動支援で、目標を共通理解し、同一歩調で進めていくことが効果となり表れていると考える。ポジティブ行動支援について、とくしまPBSアワードでゴールド賞を受賞するなど、高い評価を得ている。	4.0	3.9	A	本年度、「とくしまPBSアワード」でのゴールド賞受賞や保護者肯定率の向上に見られるように、ポジティブ行動支援を軸とした指導体制が効果をあげていると考える。次年度は、この基盤を維持しつつ、「児童の主体性の引き出し」と「PBSの日常的な深化」を重点に次の改善を図る。	○児童が主体的に取り組むPBSを実装する。教職員主導の指導に留まらず、児童会や学級活動において、児童自らが「自分たちの目指すべき姿」を考え、互いのポジティブな行動を認め合える活動を充実させる。自分たちで学校生活をよりよくしていく成功体験を積み重ねることで、自己有用感の更なる向上を図る。
	特別支援教育の取組状況	3.88	教職員アンケートで、「全教職員の共通理解と協力体制の確立を図り、適切な教育支援を推進している」は、肯定的割合100% (平均値3.92) と回答している。特別支援教育における体制づくりができていると教職員は実感している。また、「ポジティブ行動支援を行うことで、望ましい生活習慣の形成など子どもたちに変容を図ることができた」では、肯定的割合が100% (平均値3.85) で、ポジティブ行動支援が児童を成長させていると感じている。	4.0	3.9	A	本年度、全教職員の共通理解による指導体制とPBSの活用により、児童一人ひとりの特性に応じた教育支援が行われている。次年度は、さらに実効性のあるものとするため、UDLを重点に次の改善を図る。	○UDLの視点による学びを保障する。UDLの視点を授業づくりにも積極的に取り入れる。全ての児童にとって「わかりやすい・学びやすい」環境を構築し、学力向上の取組と連動させることで、学校全体の教育の質を上げる
	健康・安全教育の取組とその成果	3.85	安全教育に関する質問を教職員にとったところ肯定的割合100% (平均値3.92) と回答している。児童についても避難方法の理解に関する質問に対して100%の肯定的回答となっていた。「朝食を食べている」児童は、昨年度同様で95%であった。また、保護者の96% (+1pt) は「学校は、外遊びや体育の授業を通して、体力向上を目指して指導している」と回答している。「健康への関心を深め、児童自らが基本的な生活習慣が身に付くように促すことができた」と回答した教職員は100% (平均値3.92) であった。「食への関心を高め、児童自らが食の大切さに気付くようにしている」という質問項目に対しても肯定的割合が100%だが、平均値が3.69となっており来年度は食育にもさらに力を入れたい。	3.6	3.8	A	本年度は、安全教育や体力向上への取組は、教職員・保護者から高い評価を得た。次年度は、学校運営協議委員の方の助言を踏まえ、「児童が自らの健康・安全をマネジメントする力の育成」を重点に次の改善を図る。	○「自分事」として捉える安全・体力づくりを推進する。避難訓練等を見直し、児童自らが危険を予測し判断する「思考型訓練」を取り入れる。 ○食への関心を高め、朝食摂取率の維持に加え、食の質的理解を深める。
	家庭・地域教育の取組とその成果	3.89	保護者の学校行事への参加並びに担任との連携は昨年度より上昇し98% (+7pt) の保護者が肯定的に回答している。「総合的な学習の時間や学校行事などにおいて、地域の人材や外部講師の活用ができてい」という質問項目に対し、教職員は肯定的割合が100% (平均値4.00) と回答している。児童に自分を支えてくれている地域の人たちの存在に気付かせ、感謝の気持ちを人権教育を通して育てていったことも高い評価につながった要因でないかと考えている。	4.0	3.9	A	本年度も、人権教育に地域人材を活用することで、人権意識を高めることができた。地域の教育力を深く実感する成果となった。次年度は、「地域を愛し、地域に貢献する持続可能な社会の担い手の育成」を重点に次の改善を図る	○双方向の地域連携カリキュラムの構築する。地域の方から学ぶ活動を継続しつつ、学んだことを発信したり、地域に自分たちなりに参画したりする「双方向」の活動を充実させる。自分たちの行動が地域に貢献する体験を通して、郷土愛と自己有用感をさらに高める。

◆学校運営協議会委員からのご意見

- ・「児童はよい環境のなかで育てられる」とあるように、先生と児童が信頼し、何事にも熱心に取り組んでいる姿勢が感じられます。
- ・すばらしい教育実践を進められています先生方に敬意を表します。
- ・児童が主人公に教育されている姿がよくわかりました。